

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1971200231
法人名	医療法人 聖仁会
事業所名	医療法人 聖仁会 グループホームうらら
所在地	〒 403-0015 山梨県富士吉田市ときわ台1-1-26 電話番号 0555-30-1216

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年10月14日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】平成20年9月9日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月2日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤	4人 非常勤 6人 常勤換算 7.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 0 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	350 円	昼食	540 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1440 円			

(4) 利用者の概要 平成20年9月9日 現在

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.1 歳	最低	78 歳	最高	106 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富士吉田市立病院、鷲見歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年10月23日

市内の住宅地の中に位置し、すぐ脇は幹線道路が走る。鉄骨二階建ての二階部分にホームがあり、一階は通所介護サービス施設となっている。利用者の尊厳を守り、笑顔でやさしく接し、介護の質の向上に努めることを基本理念としている。終末期については、開業医の協力や訪問看護を受け、自宅で過ごすよう支援している。現在、「地域資源マップ」作成に取り組み中である。利用者から、生活圈だった商店街や馴染みの場所を聞き、書き込んでいる。運営推進会議のメンバーも協力的である。将来的にはマップを利用し、ひとり暮らし高齢者の支援にもつなげる考えである。職員は、研修を平等に、段階的に受講し、内容を共有し、実践の場に活かしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とそれ後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 利用者への言葉づかいや接し方を再検討し、プライバシーの確保に努めること。また、食材の買い置きは避け、利用者とメニューを考え、一緒に食事を作る等、改善に取り組んだ。残された課題については、今後も検討を重ねていく考えである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は意義を理解し、全体やミニのカンファレンス等で、計画作成担当者を中心に、項目毎に意見を出し合い、自己評価に取り組んだ。出された意見をもとに、管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 外部評価の結果、行事、ヒヤリ・ハット事例、防災訓練等の報告をしている。「地域資源マップ」への取り組みを議題にあげ、民生委員、自治会長、行政等から協力的な意見が出されている。夜間の一人勤務を想定した防災訓練には自治会から2名の協力が得られている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時、家族会、うらら通信等で暮らしぶりを伝えている。また、同時に意見や要望を聞き、カンファレンス等で話し合い、実践につなげている。苦情受付箱は、設定されているが、活用されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 盆踊り大会や、地区の防災訓練に参加したり、散歩を兼ねて、ゴミステーションの清掃を行っている。今後は、現在作成に取り組み中の「地域資源マップ」を活用し、市や自治会の協力も得ながら、地域とのつながりを広く持ち、将来的にはひとり暮らし高齢者の支援にもつなげたいと考えている。

2. 調査報告書

事業所名：医療法人 聖仁会 グループホームうらら

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス事業所としての役割を踏まえたうえで、利用者の尊厳を守り、笑顔で接しながら、介護資質の向上に努力することを謳った理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間の壁面に基本理念が掲示されている。管理者は、カンファレンスの際、職員と共に確認している。また、毎月リーダー会議において、理事長も共に確認しているが、全職員の認識の徹底にまでは至っていない。	○	地域に密着したサービスの理念を、全職員が共有することが重要である。確認の場を多く設け、利用者が安心して、その人らしく暮らせるよう支援することを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊り大会や地区の防災訓練に参加したり、ゴミステーションの清掃を行っている。自治会の文化祭への出品の呼びかけがあったが、今までは参加できていなかった。今後は利用者の作品の出品などを予定している。また、現在、生活圈だった商店街や馴染みの場所を思い出してもらい、「地域資源マップ」に書き入れる作業に取組中である。市の協力もあり、将来的に、ひとり暮らし高齢者の支援も考えている。	○	自治会の文化祭への参加や自主防災への協力の呼びかけ等を積極的に行い、地域との交流を深めることが望まれる。また、「地域資源マップ」への取り組みが、今後の地域との連携に、有意義に活用されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、意義を理解し、全体やミニのカンファレンスで、項目毎に職員の意見を聞き、管理者がまとめた。評価結果は、全員で検討し、利用者への言葉づかいや接し方、食事は利用者メニューを考え、一緒に作る、食材の買い置きは避ける等の改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。家族、行政、地域等の代表と職員で構成され、外部評価結果、行事やヒヤリ・ハット事例、防災訓練等の報告をし、「地域資源マップ」への取り組みを議題にあげ、行政、民生委員、自治会長から協力的な意見が出された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	苦情や事故の報告や相談をしたり、パンフレットを置いてもらっている。また、「うらら通信」も届けている。運営推進会議を通しての連携もあり、「地域資源マップ」作成には、協力を得ている。研修会等の情報案内があり、職員の研修の機会が得られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「うらら通信」や面会時、家族会等で暮らしぶりを伝えている。また、状態の変化等についても、その都度、報告をしている。金銭については、ホームで預かり、個々の出納帳に明記され、家族の確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱は、ほとんど活用されていない。家族の面会が多いので、コミュニケーションが図られており、意見や要望があれば、直接受けて、カンファレンス等で議題に取り上げ、実践につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の混乱を避けるため、極力抑えているが、サービスの偏りをなくすため、法人内の異動は、数年に一度行う。職員の交代や採用には、段階を踏んで、継続の職員と1週間以上2人で現場に入る。家族にも報告し、理解が得られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	情報を得て、段階的に受講し、職員の平等参加に配慮している。受講者は、カンファレンス等で報告し、内容の周知徹底を図っている。内部研修は、法人主催の認知症フォーラムへの参加や、ケアマネジャーからセンター方式の取り組みの指導を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人主催の認知症フォーラムへの呼びかけに対し、介護保険施設や居宅介護支援サービス事業者等の協力は得られたが、他においては、特に交流の機会は、ほとんど持たれていない。	○	同業者同士、交換研修や交流の場を設け、共に学びながら職員の育成やサービスの向上につながるよう、取り組まれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者と計画作成担当者は、事前に家庭を訪問し、相談を受けたり、情報を得ている。ホームへの見学は、家族のみが来所し、サービスが開始されるケースが多い。体験入所等は行っていない。	○	利用開始前に、本人も一緒に来所し、他の利用者や職員と顔馴染みの関係をつくりながら、サービスの開始につなげるよう配慮が望まれる。体験入所も一つの方法と考える。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	言葉づかい等に気をつけながら、人生の先輩との信頼関係を保つよう努めている。食事の準備や片付け、洗濯物たたみ、カラオケ等、楽しみながらコミュニケーションを図っている。個々にあった関係づくりができるよう工夫に努めているが、内容によっては、重度の方の参加が難しい場面もある。	○	重度の利用者にあっても、一人ひとりの思いや意向を把握する中で、一緒に過ごし、共に支え合う生活ができるように、より一層の場面づくりの工夫に期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、本人の意思を確認しながら、支援している。散歩やドライブに、馴染みの場所を、コースに入れている。献立には希望を取り入れている。また、顔色や日々の記録から体調の変化を把握している。(排便、水分等)なお、意向の把握が困難な利用者に関しては、把握するのに苦勞することもあるが、関係者と相談したり、本人との関わりの中から汲みとるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回行う全体カンファレンスにおいて、利用者の生活歴や、観察記録を基に、意見交換を行い、介護計画書を作成している。家族の同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1度、定期的な見直しを行っている。状態に変化が生じた場合は、その都度、家族等に相談しながら、見直しを行っている。見直しを行った内容については、カンファレンスの記録に残すことにより、職員間で共有できるようにしている。新たな介護計画書への書き換えは、定期的に行うようにしているが、時間的な余裕がない場合は、速やかに行えない場合もある。	○	カンファレンスを行った際の記録の中で、現行の介護計画の変更に関する事項がある場合は、速やかに同計画書に加筆・修正するなどし、その内容について、ご家族等へ交付し同意を得ておくことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わって通院(歯医者、眼科、総合病院等)に同行し、結果は、家族に報告している。また、状態把握のために、家族と同伴することもある。個人的に要望される買い物に同行している。希望を受け、併設のデイサービスに参加する支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する受診が、できるよう支援している。また、必要に応じて、日々の記録を用意し、適切な医療が受けられるよう、医師との連携も図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態に合わせ、家族と話し合っている。「自宅の畳の上で」という考えは、家族もホーム側も一致している。センター方式にて、自宅介護の時期を判断し、総合病院への通院から、開業医に協力を求める支援をしている。往診と訪問看護を受け、数日間自宅で過ごした例がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は、事業所内にて管理されている。排せつ支援等には、プライバシーを損ねないよう、声掛けや対応に配慮している。一部ではあるが、配慮に欠ける場面もあり、その都度注意し、指導している。	○	排せつ支援における配慮は、重要である。カンファレンス等で、理念の再確認を考慮に入れ、プライバシー確保の徹底についての指導が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間、散歩、着物の生活だった人は、時々浴衣を着る等、利用者のペースや希望を優先した支援に努めている。車椅子の利用者の場合、意思の疎通が難しく、介助中心になりがちである。	○	重度であっても、その日の状態に合わせて、1日をその人らしく過ごせるよう、個々の望みを把握し、ペースに合わせた支援に努めることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、夕は好みを聞き、食材の買い求めや調理を、一緒に行っている。昼は、併設のデイサービスから栄養士の献立による食事が運ばれてくる。職員は、昼食準備や食事の時間帯は、介護と介助に専念し、別室にて食事をしている。週何回かは検食している。	○	食事は、準備から片付けまで、個々の力を活かしながら、職員と一緒にいき、楽しみながら、同じものを一緒に、食べることへの工夫が望まれる。昼食も喜びや自信につながるよう、ホームで準備することが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は、いつでも入浴可能となっているが、重度化が進んでいる利用者が多く、週2～3回、午後の入浴となっている。また、身体の状態に合わせて、デイサービスのリフト浴での対応も行っている。	○	今後、課題として、希望の時間帯も考えている。デイサービスが年末年始が休みとなるため、家族の参加も得ながら、畳の部分も使って、多勢で入浴してもらうことを検討中である。実現に期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが、得意分野で活躍してもらえよう、支援に努めている。食事の準備(皮むきや配膳等)、洗濯物たたみ、居室の掃除、カラオケや散歩、併設のデイサービスの仲間との交流を楽しむ利用者もいる。また、利用者の重度化等の理由により、現在は止めている菜園づくりを、今後、利用者支援に再び活かすために、復活させることを予定している。	○	ホーム横の空き地に菜園の復活を予定しており、利用者と一緒に季節の野菜作りを考えている。五感刺激や季節感のある菜園の復活に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩の他、ドライブを兼ねて、河口湖、山中湖、ショッピングセンター、花見等、季節感や外気に触れる機会をつくっている。出来るだけ個々の要望に添えるような支援を心がけ、対応しているが、車椅子の利用者もいるため、全員が揃っての日常的な外出支援は人員的に難しい。	○	本人やご家族の意向を把握する中で、日常的に、一人ひとりが戸外で気持ちよく生き生きと過ごすことができるよう、引き続き個別の支援を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階入り口は、デイサービスと共用で、日中は開放されている。ホームから1階へは、階段とエレベーターでおけるが、利用者への見守りが徹底されており、安全は確認されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の指導で、法人全体での合同訓練を実施している。独自では、月1回、夜間の1人勤務を想定し、地域住民2名の協力を得て、職員1人の誘導避難訓練を行っている。家族には、避難場所を知らせてある。また、備蓄食品や水の用意がある。	○	今後、年2回の訓練を予定している。予定を確実のものとし、年間計画に定着されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼は栄養士の献立により、500キロカロリーは確保されている。朝と夕は、好みを取り入れた献立となっている。食事量が少ない利用者には、負担がかからないもので、カロリーを補っている。食事量、水分量は、毎食後チェックし、記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、木製のテーブルやソファが置かれ、小上がりの畳の間もある。壁面や柱には、絵画や利用者の作品が飾られている。調度品も違和感がなく、落ち着いた雰囲気づくりがなされている。台所やトイレも家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に家具や鏡台等馴染みの品が持ち込まれ、時計、カレンダー、自作の作品や家族の写真等が飾られている。収納戸棚は、スペースが広く、多目的に利用されており、すっきりとした居室は、居心地よく落ち着いて過ごせる工夫がなされている。		